フィリピン　レイテ島参拝の思い出　　富士宮市遺族会　清　功

太平洋戦争が終わり、父を失って77年の歳月が過ぎ去ってしまいました。

平成25年2月6日、念願かなって姉二人と共に静岡県フィリピンレイテ島参拝団の一員として、県議団の方々そして私たち遺族が夢にまで見たこの島に来ることができました。

レイテ島は思っていたよりジャングル化し、また時間の制約もあり戦争の傷跡はあまり見ることは出来ませんでしたが、目的である式典（追悼式）は丁寧にしていただきました。平和の碑の周辺は現地の人達が草刈りもしてくださってあり、すがすがしい中で始まりました。まず神社庁の方々が日本から持参して頂いた水を記念碑にそそぎ、県議団長の挨拶の後、私も遺族代表の挨拶をと言われ、何しろテントの中ではありますが、35度くらいあったでしょうか、私は「お父さん遅くなってごめんなさい」と叫んでしまいました。来賓の方々、遺族の皆様、この地レイテ島に足を運んでくださった方々にお礼を言いながら、「父がこの地で祖国日本の繁栄、これからは平和であってほしいと願いつつ、戦死する時はどんなことを考えただろう。きっと『妻を、5人の子供を、年老いた両親を残して、ここで死ぬ』。私は考えただけで、自分の心を抑えることができません。そんな思いが脳裏をよぎってしまい、途中からは涙と汗で読んでいるメモが見えなくなってしまいました。ふとわれに返り、前を見上げてみると、遺族はじめ県議団の方々も感激したのか涙してくださっていました。私の姉たちは出発する時から、これが最初で最後だと言っていたこともあり、最初から最後まで泣いている始末でした。

式典後よく見ると慰霊碑には「平和の碑」と刻まれ、横には石川前県知事の名前があり、裏には「日比両国の永遠の繁栄を祈念し建立　戦後60年2006年1月静岡県議会英霊にこたえる議員団」と刻まれてありました。

最後に、遺族の方達と、帰国したらお墓に入れてやりたいと、碑の周りの小石を頂いて帰ることにしました。また、この記念碑を守ってくださるレイテ島の方々に感謝しながらレイテ島を後にしてマニラに向かいました。夜は議員団の方々や遺族の人達と交流を深め、有意義な時間を海外で過ごすことが出来ました。

この参拝は、私にとって残された短い人生ではありますが、決して忘れる事はできない思い出になりました。